

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492300171	事業の開始年月日	平成26年4月1日	
		指定年月日	平成26年4月1日	
法人名	株式会社保健科学研究所			
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所ふじの花			
所在地	(〒250-0013)			
	神奈川県小田原市南町2-3-34			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	25名	
		通い定員	15名	
		宿泊定員	5名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成27年3月25日	評価結果 市町村受理日	平成27年5月19日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小田原城址の閑静な住宅街にあり、近隣には小田原文学館・西海小路(さいかち)通りの桜並木など自然に恵まれ、四季の移り変わりを五感を通して感じて頂くことができます。ふじの花では利用者様の五感を大事にさせていただける為の支援に重点をおき、「みんな仲良くしようね。」を合言葉に利用者様にご満足頂けるサービス提供を行っております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成27年3月30日	評価機関 評価決定日	平成27年4月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇利用者本位の介護支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の思いや意向をくみ取るため、送迎は個別か少人数で行い、お風呂もゆっくりと話す機会として活用するなど、利用者本位の支援に努め介護計画も利用者や家族の意向を入れて、通い、泊り、訪問を柔軟に組み合わせて対応している。 ・スタッフ会議で、利用者の生活リズムや要望を話し合い、職員間で共有して利用者が自立した生活を維持できるよう個々に合ったケアを行っている。 <p>◇利用者の五感を大切にした支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の生活に潤いを持たせるよう、日常の外出やレクリエーション以外に、月に一度は行先や行事内容を利用者の希望で決め、曾我の梅林や小田原城址の桜、仙石原のススキ、また、駐車場でガーデンパーティーや流しそうめん、ミニ運動会などを楽しんでいる。 <p>【事業所の工夫している点】</p> <p>◇食事を楽しむ支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・献立と食材は通常業者に委託し職員が調理しているが、時には利用者の希望に応じた好みの食事を提供している。 ・誕生会のケーキ、おやつやお好み焼きなどを利用者が作り、また、ファミリーレストランや回転寿司に出かけ食事を楽しむ支援を行っている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	小規模多機能型居宅介護 ふじの花
ユニット名	—

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・法人介護事業部の理念を入社時オリエンテーションの時に説明し、朝の申し送りの時と会議の前に唱和をしてサービスの提供に実践できるようにしている。	・法人の理念「利用者の人格の尊重、家庭的環境、地域に融合したホーム」を事務室と廊下に掲示し、職員は常に理念を意識したケアに取り組んでいる。 ・職員は利用者のニーズを把握し、その人らしさを大切にサービスを実践している。	・地域密着型サービスの意義や法人の理念を踏まえ、全職員で話し合い、事業所独自の理念の作成が期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内会には加入しているものの、日常的な交流までには至っておらず、今後の課題でもある。	・町内会に加入し、地域との交流に取り組んでいる。 夏祭りには、駐車場を神輿の休憩所に提供し、利用者が祭りの雰囲気を楽しんだが、地域の一員として日常的な交流は今後の課題である。	・運営推進会議でも取り上げて、地域の防災訓練や行事へ参加し、事業所の行事に地域の方々を招くなど、地域との交流に引き続き取り組むことが期待されます
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・介護事業所、包括支援センターなど個別の相談のお答えはしておりますが、地域全体に向けてはまだできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・併設のGHとともに開催しております。ご家族様代表、地域包括の方、民生委員様町内会長様、老人会会長様にお声かけして行っています。今後活動の報告の場としてだけでなく、活動の評価という視点で意見を反映していけるように考えています	・運営推進会議は、2か月ごとに開催し、事業所の活動報告後、意見交換を行っている。 ・出席者から地域包括支援センターのふれあいサロンで開催される茶話会へ参加や外出の機会を多く、との意見があり運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・地域包括・介護保険課・高齢者相談窓口の方等々、良く話し合いの場を持ち協力関係を構築できるよう取り組んでいます。	・市の高齢介護課と福祉政策課の担当者とは、事業所の課題や、利用者の受け入れの相談をするなどで協力関係を築いている。 ・小規模多機能型事業所連絡会に管理者が参加して情報交換し、連絡会主催の勉強会にも参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・研修マニュアルがあり、入社時におこなっております。新聞記事なども閲覧出来るようにしており、継続的な職員への啓発を行っています。玄関の鍵はかけておらず、車椅子は移動の道具としての考えを徹底しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入職時に職員に配付する身体拘束禁止規定集に基づき内部研修を行い、身体拘束をしないケアを徹底している。 ・職員は言葉によっては拘束になることを学び、不適切な言葉使いについては互いに注意し合っている。 	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内部での研修を行っています。利用者様ご家族の相談にもものり少しでも在宅介護の負担の軽減となるように支援を行っています。 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内で個別に勉強会を行うことがあります。事業所全体で取り組めるように準備している段階です。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・相談の段階から、料金などわかりやすく何度もご納得いただけるように、説明をしています。疑問な点は、契約の後でもその都度補足させて頂き、不安のままの利用とならないよう努めています。 		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 業務の効率化を図っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の意見や要望は、朝夕の送迎時や連絡ノート、運営推進会議で聞いて、利用者からは送迎時の車の中や入浴の時に意見や要望を聞いて運営に反映させている。 ・外出の機会を増やしてほしいとの声に近隣への散歩回数を増やした。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員からの意見や提案を発言しやすい場を心掛け、職員会議などでも意見を出しています。月に1度の介護事業部の管理者会議にて報告し、意見や要望が反映できています。	・管理者はスタッフ会議や日常の勤務の中で職員の意見、要望、提案を聞き運営に反映している。 ・職員の提案で、車いすのままでも乗降できる送迎車の購入や連絡帳を複写式に変えるなど、サービスの向上と業務の効率化が図られた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員個々の性格、・経歴・得意分野など考慮し、やりがいを持って仕事に取り組めるよう努力しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・事業所内外の研修にて、新しい知識・技術の習得が出来る機会を設けています。事業所内部でもいつでも技術指導を行えるように取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・地域のGH・小規模連絡会、近隣の同業者との勉強会や行事への参加などを通じて、サービスの質やスキルアップに繋げています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ご家族様との面談、ご本人様の施設見学、家庭訪問など柔軟に行い、少しでも不安を軽減しサービス利用の開始が出来るように、環境づくりに取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・利用開始前に要望の確認を行い、計画作成者・リーダーも通い・訪問サービスに同行し、直接関わる取り組みを行っています。情報収集と共に自宅訪問を行い家族の抱える問題点や不安等に耳を傾けるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご本人様・ご家族様からの要望・希望を聞き取り、求めているサービス提供になるように努めています。利用中に必要と思われるサービスの変更などにも、随時対応できるように、情報の提供を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日々の通い・訪問サービスを通じて少しでも馴染みの関係になれるように努めています。皆さんと一緒に支え合える環境づくりに取り組んでいます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・関係を構築できるように、現在取り組んでいます。ご家族様に写真を見て頂いたり、いつでも見学に来ていただけるように共にこれからの生活支援を協力していけるようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・利用者様のさりげない会話の中で、馴染みのお店や、場所に出向くことやご友人にも気楽に立ち寄って頂ける環境を提供しています。	・家族からの情報や利用者とのさりげない会話から馴染みの人や場所を把握している。 ・みんなで馴染みの店におやつを買いに行き、職員が馴染みの美容院や床屋に送迎したり、友人に気軽に訪問してもらうなど馴染みの関係の継続を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者様同士がくつろぎながら、話せる場所を提供できるように心掛けています。日々の関わりの中で職員が間に入り、より良い関係が築けるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約が解除になった後も、相談や経過報告をできやすいように時折、事業所から連絡を入れたり、相談に応じています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・ご本人様・ご家族様の意向に配慮し、どのように取り組めば良いのかをスタッフ会議にて話し合い、日々の対応の仕方について情報を共有し柔軟に対応できるようにしています。	・1対1でゆっくりと話す機会が持てる送迎時や入浴時に、意向の把握に努めている。コミュニケーションをとりづらい利用者からは表情や仕草から把握に努めている。 ・把握した情報はスタッフ会議で共有してケアに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用相談の段階から、生活歴を元に情報収集を行い、日々の関わりの中なかで得た情報を職員同士で共有できるように取り組んでいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・ご家族との連絡ノート・通いサービスの中での関わりの中で得た情報収集を行い、日々の関わりの中で得た情報を職員同士で共有できるように取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・日々の関わりで得られた情報元に、必要と思われるサービスを提案しています。ご家族様と話し合う機会を設けて計画の見直しを計っています。	・利用者と家族の意向を把握し、管理者・ケアマネジャーが中心となり、スタッフ会議で話し合い介護計画を作成している。 ・短期目標を3か月、長期目標6か月ごとに見直し、変化が見られたときはその都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・業務終了後に、当日の職員でカンファレンスを行い情報の共有・そのかたにあったサービスを提案できるように取り組んでいます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者様お一人おひとりのご家族様の状況に応じて柔軟な支援が出来るように努力しています。通い・訪問・宿泊とそれぞれに必要なサービスの提案をさせて頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・通いなれている、理髪店へ、かかりつけ医への送迎。地域の中での観光地へのドライブや散策、買い物支援を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・サービス利用開始前に主治医との連携を図り、継続的な支援を行っています。状況に応じてサービス利用中の様子を文書にし、情報提供を行ったり、必要であれば同行し直接様子をお伝えする取り組みを行っています。	・利用者は従来からの主治医をかかりつけ医としている。 ・管理者は主治医との関係を大切に、個々の主治医とは家族を介して連携がとれる態勢になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日々の健康チェックや関わりのおかげで、健康状態を把握し早期異常の発見と気づきをご家族様に伝え受診の際の情報を伝えたり、経過を報告しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院中の情報収集や退院に向けての協力、退院後の指導を受け、病院関係者への定期的訪問を行い日頃より、事業所の活動状況など報告して関係づくりを築いています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・取り組みを検討しております。事業部内・外の研修や勉強会に参加し知識や技術が浸透するように努めています。	・看取りに向けて体制を検討中で、職員は事業者内での勉強会や外部研修に参加して、知識と意識の向上を図っている。 ・状況に応じて家族、医師、看護師と管理者が連携し方針を共有して、支援する体制になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・応急手当・連絡の優先順位を伝える取り組みやマニュアルがあり、いつでも閲覧できるようになっており、電話の近くに設置してあります。事業所にはAEDを設置しており、緊急時に備え対応できるように取り組んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・災害対策用のマニュアルの作成をしており、3日分の非常食・水の備蓄を行っているところです。避難誘導を含めた定期訓練と、近隣との連携のつくりに取り組んでいます。	・隣接のグループホームと合同で、年2回の避難訓練を計画中である。 ・災害時の地域との協力体制構築と食料や水、防寒具、紙おむつなどの備蓄は今後の課題としている。	・計画中の避難訓練の早期実施と食料や水、防寒具、紙おむつなどの備蓄が望まれます。 ・地域との協力体制構築に引き続き取り組まれることが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・馴染みの関係を目指し、お一人おひとりの人格を尊重し、言葉使いや態度に気を付け、個々の誇りやプライバシーを損なわないように心掛けています。	・職員は接遇とプライバシー保護の研修を受け、生活歴などで利用者の様子を共有し、誇りやプライバシーに配慮し、性格や心身状況に応じた言葉かけや対応をしている。 ・職員は不適切な場面があれば、その都度お互いに注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者様のさりげない、日常の会話の中で思いや希望を尊重するように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・柔軟な対応にて意向に応じてはありますが、すべてにまでは至っておりません。通いサービス・訪問と限られた時間の中でのご本人様のペースを尊重した支援を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・洋服を選ぶことや、薄化粧などの支援を行っています。髪型ひとつにしても、利用者様と鏡をみて確認し楽しんでいただいています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・お手伝いが可能なかたには出来る限りテーブル拭きや、食器拭き、おかずの盛り付けなど参加して頂いています。お手伝いが出来なくても、煮物の匂いや、ご飯の炊けてくる匂いなど五感を大事にし、食事を楽しむことができる支援を行っています	・献立、食材は業者に委託し職員が調理し、利用者はできる範囲で盛付け、テーブルや食器拭きを手伝い、職員と一緒に食事を楽しんでいる。 ・誕生会のケーキやおやつ、お好み焼きなどをみんなで作り、食事が楽しめるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・ご家族様・看護師・管理者と相談し、食事の摂取量や水分量の把握をしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・利用者様が自主的に口腔ケアが出来るように働きかけています。ご家庭での生活スタイルを尊重しながら、行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・ご家族様と連絡帳を使ったり、送迎時・訪問時に排便の有無を確認し、排泄チェック表を用いて排泄パターンの把握をしています。そのうえで羞恥心を損なうことのないように声掛けや誘導を行い、見守りや確認を行っています。	・利用者の排泄パターンを把握し、声掛けや見守りでトイレでの排泄を支援している。 ・水分や食事のとり方など生活習慣の改善指導により、リハビリパンツから布パンツに改善した事例がある。その利用者が自慢したことに刺激され、4人が布パンツに改善した。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・ご家族様と送迎時や訪問の際に排便の有無や便秘への対応など確認しています。事業所でも飲食物の工夫や排便チェック表を用いて予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・夜間入浴の対応は出来ませんが出来るだけ個々の習慣や意志を尊重し、入浴時間やストレスなく入れる配慮など心身ともに負担がかからないように注意し取り組んでいます。	・入浴は週3回を目安とし、回数や時間帯は柔軟に対応している。 ・入浴を好まない利用者には、日時や職員を変えたり言葉かけを工夫し、さりげなく誘導している。 ・利用者は、季節に応じて柚子湯や菖蒲湯での入浴を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・通いサービスのなかで、十分な休息をとれる環境と、体制が一部になってしまっているのが現状であり課題です。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・一人ひとり使用している薬の薬事情報がいつでも確認できるようにファイルを作成しています。内部・外部の研修にて薬の知識や服薬支援に対する知識を深めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・利用者様それぞれの役割、楽しみごとが持てるようにまた、気分転換がはかれるように支援を行っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・近所への外出支援は行っていますが、(馴染みの理髪店)友人に会いに行くなどの支援が出来ていません。ドライブでお花見・紅葉を見に出かけたりなどの支援を行っています。	・天気が良ければ車椅子の利用者も近隣の小田原文学館の庭園で、散策と来館者との会話を楽しんでいる。 ・五感で感じることを大切にして、利用者はドライブを兼ね梅、桜、藤、ススキなどを見に出かけ、季節感と開放感を味わっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご家族様と相談の上、外出の時など、職員の見守りのもとで、お金を所持し、支払ができるように支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・一部の利用者様におかれましては、携帯電話をお持ちになりご家族様との連絡を取れるようにされている方もおられ、使い方など支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感を感じていただけるように月刊、手作りカレンダーを皆さんと一緒に作成しています。・不快な臭いや音に混乱が内容にしております。	・温・湿度や照明、換気に配慮した広くて明るい居間は、テレビを見、新聞を読む、ソファでおしゃべりをしながら寛ぐなど居心地よく過ごせる空間になっている。 ・壁面には利用者と職員による手作りカレンダーや季節の写真を飾り、季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングにはソファが2脚設置しており、気の合った利用者様同士でくつろぐことが出来るスペースになっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使いなれた、座布団や湯飲みや箸・枕などをお持ち頂くことはあり、寝具や照明などで安心して過ごしていただけるように工夫をしています。	・泊りの部屋は、ベッド、エアコン、カラーボックスが用意され、利用者は着替え、寝間着、本や時計などを持ち込み宿泊している。 ・居心地よく安心して過ごしてもらうよう、同じ部屋に宿泊するよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・「できること」「わかること」を活かして、少しでもその人らしさを失うことなくライフスタイルを過ごせるように支援を行っています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 小規模多機能型居宅介護
ふじの花

作成日 平成27年5月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	法人、介護事業部の基本理念はあるが、ふじの花独自の基本理念をつくりあげ、スタッフのサービスへの向上を図る。	法人の基本理念を基に、事業所独自のもっと身近なものとして、スタッフで話しあいを行い作り上げて行く。	---	1年
2	35	夜間を想定した避難訓練が行えていない。	併設施設うめのき園と協力し夜間を想定した、避難訓練を行って行きます。	近隣、消防署の指導を受け夜間想定避難訓練を行ないます。	3か月
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。